

◆ デートDV

嫉妬や束縛、暴力を

“愛情”“と思っ



「デートDV」という言葉をこ

存じでしょうか。恋人同士に起こるDVをいいます。DV（配偶者や親密な関係にある男女間の暴力）は、決しておとなだけの問題ではありません。高校生や大学生など、若い世代の男女間にも起きているのです。内閣府の調査では、10歳代、20歳代で交際相手から何らかの暴力を受けた女性は1割を超えています。

デートDVってどんなこと？

デートDVには、殴る、蹴るなどの「身体的暴力」をはじめ、人格を否定するなどの「言葉の暴力」、メールや行動を監視するなどの「心理的暴力」、借りたお金を返さないなどの「経済的暴力」、避妊を嫌がるなどの「性的暴力」

などがあり、本質的には配偶者間のDVと変わりません。

DVとは、親密な関係になった相手に対して、様々な暴力を用いて自分の思い通りに支配しようとして起るものです。デートDVも、親密な関係になったとたん暴力が始まるケースが多くみられます。

とくに恋人同士の場合、それが愛情表現だと思いついて、なかなかDVに気づくことができません。「彼が束縛するのは愛しているから」「彼が怒るのは私に甘えているから」と、交際を続けているうちに、別れたくても別れられない状況に陥ってしまい、被害が深刻化していきます。

最近では、携帯電話やパソコンのメールを用いて脅したり、嫌がらせをするなどのデートDVも増えていて、周囲から気づかれにく

く事態が表面化しにくくなっています。

DVのない社会にむけて

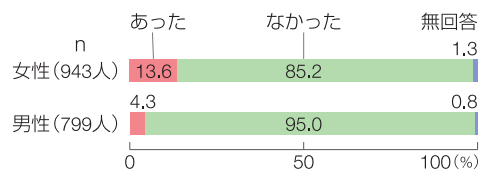
DVは人権侵害で、犯罪につながる行為です。デートDVのような若い男女間の暴力をなくすには、家庭や学校教育の中で、男女が対等な関係を築くことの大切さを伝えていかなければなりません。

男女共同参画社会は、男女の人権が等しく尊重される社会です。DVを根絶するには、いかなる暴力も容認しない社会を築いていくこと。そしておとなたちが、お互いを認めあい、尊重しあう関係を示していくことが大切です。

交際相手からの被害経験

—10歳代、20歳代で「身体的暴行」「心理的攻撃」「性的強要」の行為を1つでも受けたことがある

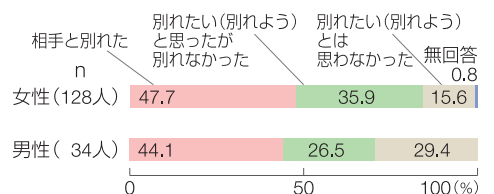
10歳代、20歳代で、身体的暴行、心理的攻撃、性的強要のいずれか1つを受けたことがあると答えた女性は13.6%で、若い世代の約10人に1人がDVの経験があるという結果になっている。



資料：内閣府「男女間における暴力に関する調査」（平成20年）より作成

交際相手からの被害を受けたときの行動

別れたいと思ったが別れなかったと答えた女性は35.9%で、その理由を聞いたところ、「相手の反応がこわかった」「これ以上繰り返されたくないと思った」「相手が別れることに同意しなかった」という回答が上位を占めた。



資料：内閣府「男女間における暴力に関する調査」（平成20年）より作成

こんな経験ありませんか？

様々なデートDV

身体的暴力

- ◆ 気に入らないことがあるとすぐ殴る
- ◆ ドライブの途中で車から降ろされた
- ◆ 髪の毛をひっぱったり、唾をはきかける

言葉の暴力・心理的暴力

- ◆ デブ、バカなど汚い言葉をあびせる
- ◆ 別れるなら殺すと脅された
- ◆ 理由もなく急に不機嫌になる
- ◆ 何を言っても無視する
- ◆ 大切な物をわざと壊す
- ◆ メール履歴などを細かくチェックする
- ◆ メールで1日の行動を報告させる

性的暴力

- ◆ 性行為を強要する
- ◆ 避妊を嫌がる
- ◆ 見たくないポルノを無理やり見せる

経済的暴力

- ◆ バイトをさせたり、お金をねだる
- ◆ 借りたお金を返さない